

(第3号様式)

学位論文要旨

氏名 山本 晋

論文名 二光子励起蛍光(TPEF)による第二次高調波発生(SHG)と自家蛍光を用いた NASH モデルマウスの肝臓の線維性・形態変化の定量的イメージング

学位論文要旨

【背景】近年、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD: nonalcoholic fatty liver disease）は増加しており、本邦で約 1000 万人存在するとされる。そのうち約 20%が、非アルコール性脂肪肝炎（NASH: nonalcoholic steatohepatitis）を発症し、肝炎および線維化の進行により肝硬変、肝細胞がんを発症する。NASH の診断は、肝の線維化を反映する各種線維化マーカーの測定や血小板数、超音波検査であるフィブロスキャン、エラストグラフィが参考になるが、確定診断には肝生検による肝組織所見が重要である。肝組織における NASH の診断は、主に脂肪沈着と肝炎症および肝細胞の変性、肝線維化の評価によって行われる。とりわけ NASH と、非 NASH である非アルコール性脂肪肝（NAFL: nonalcoholic fatty liver）との鑑別に肝線維化の有無が重要であるが、病理組織を鍍銀染色などの特殊染色が必要であり、またその診断において観察者間のバイアスが存在する。そのため正確な診断とその進行度の評価のため、客観的な肝線維化組織画像診断方法の開発が望まれる。

一方、病理組織評価のためのイメージング技術進歩は目覚ましく、特に蛍光イメージングは、高感度・高解像度で生体内分子を特異的に可視化できるため、その有用性が注目されている。中でも、非線形光学を駆使した第二高調波発生（Second harmonic generation : SHG）と自家蛍光（auto-fluorescence : AF）は、無染色で生体内のコラーゲンや分子・細胞を画像化できるために、その臨床応用が期待されている。

【目的】本研究では、イメージングプロセッシング法と SHG/AF イメージング法を組み合わせた新たな肝組織画像解析法を開発し、NASH の初期病変の診断および進行度の評価におけるその有用性を明らかにすることを目的とする。

【方法】実験には、糖尿病を背景に 7 週齢時に NASH、9 週齢時に肝線維化を生じる雄の NASH モデルマウス（STAM[®]マウス）を用いた。対照群として同週齢の雄の C57BL/ 6J を

使用した。6週齢と9週齢で体重測定後に深麻酔下に、下大静脈より脱血し安楽死した。血清を用いて肝機能、総コレステロール、中性脂肪、随時血糖値を測定した。肝臓を摘出し、重量測定後、2光子励起顕微鏡を用いてイメージングを行った。具体的には、SHGイメージとAFイメージを取得し、最大値投影法（maximum intensity projection : MIP）画像を取得し、画像解析ソフト Image J を用いて2値化し、定量的画像処理を行った。MIP-SHG法ではSHGシグナルの占める割合を算出し、MIP-AF法では点状構造の平均サイズを比較検討した。また、肝臓の一部をホルマリン固定し、HE染色とEMG（Elastica Masson-Goldner）染色の病理組織学的検討を行った。

【結果】 二次元（2D）のSHG画像解析を行うと、6週齢のpre-NASH病期においては対照群と比較してコラーゲン線維の変化が乏しかったが、9週齢の典型的なNASH病期ではコラーゲン線維の走行の乱れが認められた。2DのAF画像解析を行うと、6週齢のpre-NASH病期では大きな点状構造が認められ、それはNASH病期では顕著であった。三次元（3D）のSHG/AF画像解析を行うと、肝被膜におけるコラーゲン線維のネットワーク構造とその内部のAFの点状構造が観察でき、それらはNASH病期のみならず、pre-NASH病期においても、対照群と比較して構造的変化を認め、それは病態の進行に応じてより顕著になった。具体的には、SHGによるコラーゲン線維の太さや走行の異常、AFによる点状構造の大小不同などの構造的変化が観察された。これらの構造的変化をより定量的に解析するために、イメージングプロセッシング法を駆使したMIP-SHG法とMIP-AF法で解析を進めた。MIP-SHG法では、NASH病期のみならず、pre-NASH病期においても、対照群と比較して、3D画像で観察されたネットワーク構造の異常が、SHGシグナルの占める割合によって評価できた。また、MIP-AF法でも、NASH病期のみならず、pre-NASH病期において、3D画像で観察された点状構造の大小不同が、構造物の平均サイズによって評価できた。この点状構造は、その波長と局在からビタミンAと推定され、本研究成果はNASH診断に新たな可能性を見いだすものである。

【結論】 2光子励起顕微鏡によるSHG/AFイメージングとイメージングプロセッシング法を組み合わせた新たな肝線維化とビタミンAのイメージング定量化技術を開発し、NASHモデルマウスを用いてその有用性を明らかにした。

キーワード（3～5）	非アルコール性脂肪肝炎症（NASH） 2光子励起顕微鏡（TPEM） 第二次高調波発生（SHG） 自家蛍光（AF） ビタミンA
------------	--